

はじめのいっぽ2025

言語発達 Ⅱ

東京都足立区立弥生小学校
ことばときえの教室
大井 梨絵

講義の流れ

- I 「ことば」の役割
- II ことばの力(言語力)の評価
- III 言語の4側面と指導方法・教材について
- IV ことばを育むためのエッセンス
- V 実際の指導・支援の紹介

わたしという人…

- ・東京都で難言20年。
- ・苦手なことがいっぱい。
- ・得意だと思ってもいづつか。
- ・環境に恵まれてきたことが自慢。
- ・現在は大学院生!
- ・ことばや文化の違いが楽しい!



I ことばの役割



138-139

どちらにも目を向けることが大切

I ことばの役割

ことばの働き

- ◆ 自己とのコミュニケーション
 - ・自分の気持ちを整理する（感情のコントロール）
 - ・自分の行動を組み立てる（行動のコントロール）
 - ・物事を記憶したり理解したりする
 - ・想像を豊かにし、想像的になる
- ◆ 他者とのコミュニケーション

139

I ことばの役割

言語の働き

「これからの時代に求められる国語力について」（文化審議会答申）

II ことばの力（言語力）の評価

評価したい側面

- ◆ これまでのことばの育ち

現状のことばの力の「背景」を捉える。有効な支援法が異なる。
- ◆ 現状のことばの力

ことばの支援のスタート、目標を決めるため。支援の内容を決めるため。
- ◆ ことばの育ちを支える力

知的発達全般、きく力、認知の偏り、対人関係支援・指導のアプローチ方法に大切。

II ことばの力（言語力）の評価

これまでのことばの育ち

生育歴を把握する ～参考：定型発達～

人との関わり	言語理解	言語表現
<ul style="list-style-type: none"> ・動く人を注視する ・微笑反応 ・人見知り ・母親の後追い 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し声に反応 ・「はいはい」「いいえ」に反応 ・音のする方へ振り向く ・「おひげ」など言葉尻 	<ul style="list-style-type: none"> ・話しかけられると発声 ・声を出して笑う ・喃語の始まり ・意識的に発声して注意をひく
<ul style="list-style-type: none"> ・気にならないとすねてみせる ・人の注意をひこうとする ・大人の援助で集積活動へ少し参加 ・大人と一緒に絵本を楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ハイハイ」などのジェスチャーの模倣や模倣 ・名前を理解 ・「ママどこ？」を理解し、探す ・命令・要求の理解 ・日常生活や絵本の中で簡単なものの指差し 	<ul style="list-style-type: none"> ・双発音語が活動 ・模倣発語（動詞や発声）の増加 ・指差し ・有意味語が初出 ・有意味語が増加 ・「はいはい」「プー」など
<ul style="list-style-type: none"> ・模倣がみられる ・自分の持てる物に言葉を付ける ・自分に注意をひこうとする ・集団の中で平行遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・中・下での位置関係の一つを理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・「イヤ」と拒否する ・二語文の出現 ・ある歌の一部を歌える

140-141 講座Ⅱ（石上先生）の講義も参照してください。

研修テキスト

II ことばの力(言語力)の評価

これまでのことばの育ち

幼児期から学童期への移行

学習言語
(二次的**ことば**、**社会言語**)
どんな相手でもわかるように使うことば

コミュニケーション言語
(一次的**ことば**、**生活言語**)
経験や知識を共有する人との間で使われることば

「ことばの障害の評価と指導」(大石,2001)

II ことばの力(言語力)の評価

現状のことばの力

現状のことばの力の見立て

★行動観察や普段の会話、学習の様子から
★学年相応の発達を知る

- ・ことばの音の並びを正しく話せない。
- ・ことばの意味を間違えて覚えている。
- ・話が2~3語文に留まっている。
- ・「どうして?」の質問に答えられない。
- ・長い指示がわからない。
- ・すぐに「わからない」と言う。
- ・話すことが好き。

使いやすい視点で整理する

- ◇言語の4側面から
- ◇読む・書く・聞く・話すの項目から
- ◇言語の発達段階から
- ◇自立活動の項目・内容から

II ことばの力(言語力)の評価

現状のことばの力

講座 I (吹野先生)の講義を参照してください。

健康の保持	(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること
心理的な安定	(1)情緒の安定に関すること。 (2)状況の理解と変化への対応に関すること。 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること
人間関係の形成	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること (2)他者の意図や感情の理解に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること (4)集団への参加の基礎に関すること
環境の把握	(1)保有する感覚の活用に関すること (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること (3)感覚の補助及び代手段の活用に関すること (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること
身体の動き	
コミュニケーション	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2)言語の受容と表出に関すること (3)言語の形成と活用に関すること (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

II ことばの力(言語力)の評価

現状のことばの力

ことばの検査、聴力検査の講義を参照してください。

ことばやきこえでよく使われる検査

ことばの検査

きこえの検査

- ・LCSA(小学校4年生まで)
- ・絵画語い発達検査(PVT-R)
- ・ITPA*
- ・STRAW-R
- ・読書力診断テスト
- ・抽象語理解力検査
- ・音読・音韻処理能力簡易スクリーニング検査(ELC)
- ・語音弁別検査
- ・単語聴取検査

Ⅱ ことばの力(言語力)の評価

ことばの育ちを支える力

143-144

認知 「〇〇だ」とみとめること	弁別 見分けること 区別すること
記憶 情報を覚えること	想起 情報を思い出す過程
他者視点 自分を中心とした世界からの脱却	推論 明示されていないことを推し量ること

Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

言語の4側面とは

140

音韻	聞いた語音を正確に捉える音と音の記号的関係
語彙(意味)	語の意味を理解、共有する物と言葉の関係
統語	ことばとことばを繋げる(文法) ことばとことばの関係
語用	ことばを使って人と関わる人とことばの関係

Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

言語の4側面と実態

143-144

	理解	表出
音韻	ききかえしが多い 読み書きが苦手	音のあやまりが多い (読み書き、話す)
語彙(意味)	ことばを知らない 物事を知らない ネットワークが狭い	語想起が遅い 「アレ」「ソレ」が多い 語の使用が間違っている
統語	指示が理解できない 段階的思考ができない	語の羅列で話す 助詞や接続詞を誤る 話が組み立てられない
語用	冗談がわからない 「アレ」がわからない ズレている	内容が伝わらない文を話す 一方的な話をする

構音障害、吃音(クラタリング)、難聴 ※あくまでも一例です

Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

音韻面の指導

146-147

音韻課題の主な種類

- ◆ 分解
ことばを「拍」の単位へ分解する。音韻数を数える。
- ◆ 逆唱
音の配列順序を逆にする。
- ◆ 同定・抽出
特定の音がことばのどの位置にあるかを判断する。
- ◆ 削除
特定の音を削除した音形を想起する。

※弁別ができることが前提

Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

音韻面の指導

146-147, 150

音韻分解(音韻数)の指導例

※当日画像を提示

絵カードじゃんけん

※当日画像を提示

音韻すごろく

確認手段は…

☆●●○○○
⇒ 丸をぬる

☆手を叩く
☆おはじきを並べる
☆カップに指を入れる

Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

音韻面の指導

146-147, 150

音韻抽出、操作の指導例

※当日画像を提示

音さがし

※当日画像を提示

私はだれでしょう?

確認手段は…

☆視覚的に残ることが大切!

Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

音韻面の指導

146-147, 150

音韻を使った遊び

※当日画像を提示

※当日画像を提示

しりとり、頭とり グリコ

※当日画像を提示

文字ブロック

Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

語彙(意味)面の指導

145

語彙の指導で考えたいこと

- 概念の理解
- 名詞(具体物)
- 動詞、形容詞
- 日にちや時間
- 学習用語
- 抽象語

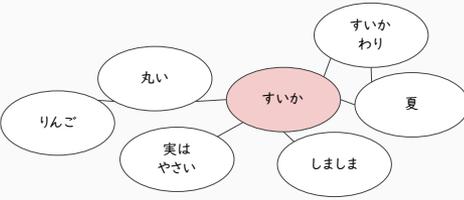
Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

語彙(意味)面の指導

145

大事にしたいこと

ことばを覚えた数より、
どう覚えていくか、知っていることばと繋げたり、
体験と繋げたりすることが大事。
ネットワークの手を増やすこと、濃くすることが大事。



Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

語彙(意味)面の指導

145

意味ネットワークの指導

絵カードの仲間わけ

- ・属性、上位概念
- ・形
- ・用途

ことばあつめ

- ・絵じてんや本から
- ・体験から
- ・先生に促されながら

※当日画像を提示

Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

語彙(意味)面の指導

145

カレンダーワーク

日付の言い方
日にちの関係性のことば
季節のことなど…

※当日画像を提示

Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

統語面の指導

145

統語面で考えたいこと

- 動詞の活用
- 助詞
- 授受文、使役文
- 接続詞、接続語
- 重文、複文

理解も表出も支援する!

Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

統語面の指導

145

統語面の指導例

※当日画像を提示

命令ゲーム、ジェスチャーゲーム

※当日画像を提示

短文作り

※当日画像を提示

ブロック積み、道順ゲーム、宝探し

Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

語用面の指導

145-146

語用論のポイント

◆ 言語の運用能力→社会的な認知と関係している

会話(非言語的な側面も含む)

文脈(冗談、皮肉、婉曲)

自分の言いたいことを相手に伝える

相手の言いたいことを受け止める

Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

語用面の指導

145-146

語用面の指導例

※当日画像を提示

状況絵のお話づくり

※当日画像を提示

キーワード文作り

状況理解の力、相手意識も合わせて高める。

Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

語用面の指導

145-146

ナラティブ(語る力)に必要なこと

- ・状況理解
- ・語想起
- ・文構成
- ・過不足のない情報提供
- ・一貫性のある表現
- ・連続性のある表現
- ・心的態度の表明

Ⅲ 言語の4側面と指導方法・教材

共通すること

ドリル教材

※当日画像を提示

何に取り組むかも大事。
どう取り組むかはもっと大事。

Ⅳ ことばを育むためのエッセンス

要素法 — 全体法

生活の言語化 — 言語の生活化

構成法 — 自然法

どの側面も、組み合わせながら指導を進めたい^^

聴覚障害教育の手引き(文科省,2020)

Ⅳ ことばを育むためのエッセンス

インリアル・アプローチ

基本の姿勢

- Silence: 子供が場面に慣れ、自ら行動を始められるまで「静かに見守る」
- Observation: 何を考え、何をしているか「よく観察する」
- Understanding: 子どものコミュニケーションの問題について「深く理解する」
- Listening: 子どものことばやサインに十分、「耳を傾ける」

インリアルアプローチ (竹田,1994)

Ⅳ ことばを育むためのエッセンス

インリアル・アプローチ

会話の原則

1. 大人が子どもの発達レベルに合わせる
2. 大人は会話や遊びの主導権を子どもに持たせる
3. 大人は子どもが始められるように待ち時間をとる
4. 大人が子どものリズムに合わせる
5. 大人は会話や遊びを共有し、コミュニケーションを楽しむ

インリアル・アプローチ (竹田,1994)

IV ことばを育むためのエッセンス

インリアル・アプローチ

言語の心理学的技法

- ミラリング: 子どもの行動をそのまま真似る
- モニタリング: 子どもの音声やことばをそのまま真似る
- パラレルトーク: 子どもの行動や気持ちを言語化する
- セルフトーク: 大人自身の行動や気持ちを言語化する
- リフレクティング: 子どもの言い誤りを正しく直して聞かせる
- エクスパンション: 子どものことばを意味的、文法的に広げる
- モデリング: 子どもに新しい言葉のモデルを示す

インリアル・アプローチ
(竹田, 1994)

V 実際の指導・支援の紹介

実際の指導

① 低学年 Aさん

※当日画像を提示

148-150

V 実際の指導・支援の紹介

実際の指導

② 高学年 Bさん

※当日画像を提示

148-150

参考文献

- ・これからの時代に求められる国語力について 文部科学省 文化審議会答申
- ・聴覚障害教育の手引～言語に関する指導の充実を目指して～ 文部科学省
- ・アセスメントにもとづく学齢期の言語発達支援～LCSAを活用した指導の展開～ 学苑社 大伴潔・林安紀子・橋本創一編著
- ・ことばの発達入門 大修館書店 秦野悦子編
- ・ことばの障害の評価と指導 大修館書店 大石敬子編
- ・インリアル・アプローチ 日本文化科学社 竹田契一・里見恵子編著
- ・きこえとことば研修テキスト(第2版) 全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会